

国内情報

第54回家畜人工授精・繁殖技術発表全国大会で西川賞決定！

総務部 技術・情報室 倉上 愛梨

2月12日、大手町の日経ホールにて、一般社団法人日本家畜人工授精師協会主催の「第54回家畜人工授精・繁殖技術発表全国大会」が開催されました。この日は、「牛の繁殖成績を向上させよう！」を大会スローガンに、全国から選ばれた8名（表参照）が日常の業務を通じて得た貴重な知見や調査研究結果を発表され、会場に集まった約250名が熱心に耳を傾けました。また、特別講演として、「近年の暑熱環境は乳・肉用牛の繁殖性にどう影響しているか」をテーマに、北里大学准教授の鍋西久先生による講演も行われました。さらに今年度から、本大会での新たな取り組みの一環として、「日本学校農業クラブ全国大会」にて高く評価された発表者を招待しての講演の場が設けられました。今回は、意見発表部門にて農水大臣賞に選出された宮城県農業高等学校の南條匠極さんによる、

「末広がり仙台牛 ～良質稲藁で拓く未来のブランド牛～」の発表が行われました。

そして、家畜人工授精を通じ顕著な業績をあげた例として選出された2題に贈られる西川賞（最優秀賞）には、**北海道の森口巧氏**の、ET時の黄体血流量と受胎率との関連性および黄体血流面積を自動解析できる自作のスマートフォンアプリについての発表、そして、同じく**北海道の西井亮太氏**の、発情時の出血を起点として4日目にOvSynch処置を行った場合の5日目処置時との受胎率の変化についての発表が選出されました。選考委員長であった宮崎大学教授の大澤健司氏は総評の中で、「西川賞に決定した2題は、道内での発表会を経てこの全国大会に提出されたものであり、内容のまとまりなどレベルの高さを感じた。北海道のみならず他地域でも、切磋琢磨して来年以降の発表に挑戦して欲しい。また、北海道・九州以外の地域からの益々のエントリーを期待したい。今年も優れた発表が多く、選考委員会ではそれぞれの演題に非常に高い評価があったため、今回は惜しくも受賞を逃した皆様も自信を持っていただきたい」と述べられました。

本大会の運営に携わって3年になりましたが、昨年からは2年連続で発表され、この度西川賞受賞者となった西井氏のように、繁殖に関する様々な課題に対して、全国の技術者が試行錯誤しながら長年取り組む続けることで、日本の畜産が支えられているのだと毎年感じています。そして、このような農家の経営の一助となる情報や技術の提供を、当団として今後も続けていかなければと改めて思わせてもらえる貴重な場でもあります。全国から優良事例や新たな知見が集結するこの大会が、来年も開催されることを期待しながら、以上をご報告といたします。



後列) 千電氏、神作氏、小川氏、京村氏、藤田氏、貞刈氏、
前列) 森口氏、強谷会長、西井氏

発表演題および発表者

発表演題	発表者
分娩間隔 465 日からの挑戦「我が家の1年1産を目指した取組」 一年一産を目指して～初回授精の改善への取組み～	鹿児島県 千電 裕樹 千葉県 神作 和樹
繁殖から消費者まで全てを連動させる和牛経営	長崎県 小川 博信
地域とともに繁殖経営を続けるための取り組み	島根県 京村 真光
牛群検定受検牛における PAGs 検査後の再授精率と産乳成績の関係について	北海道 藤田 豪
泌乳最盛期および繁殖期における乳成分値と胚移植成績の関連： 生産記録を利用した受胎牛選定の試み	福岡県 貞刈 陽
乳牛の受胎率向上に向けた黄体・周囲血流量の分析と現場応用の可能性	北海道 森口 巧
出血を起点とした OvSynch 処置の再検証と開始時期変更による受胎率の検討	北海道 西井 亮太

(敬称略)